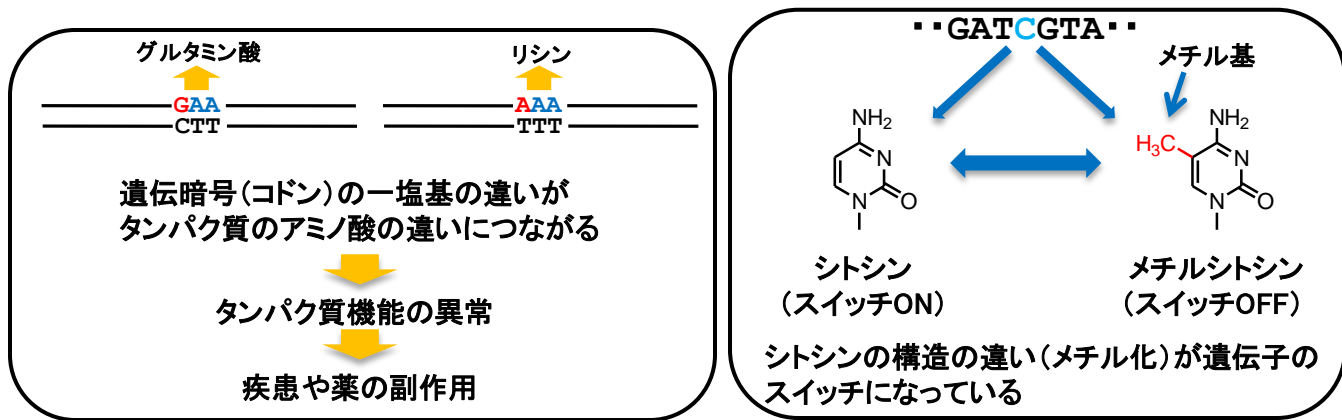


DNAのユニークな性質と化学の知識を組み合わせた新しい診断技術、医薬品の開発を目指しています。

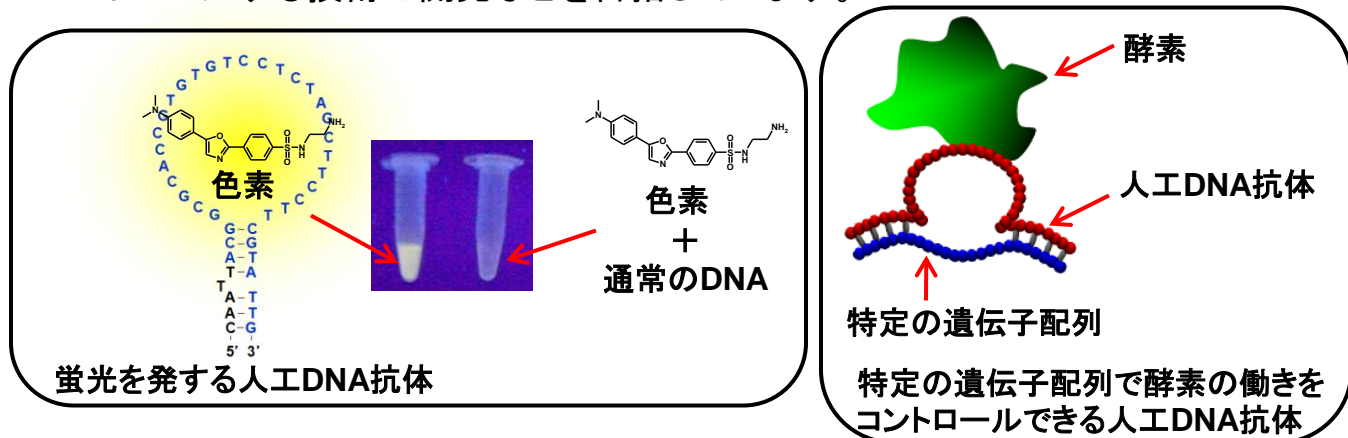
## 遺伝子の個人差を調べる

ヒトの遺伝子配列のわずかな個人差や構造の違いを調べることで、将来かかる可能性のある病気や、薬を服用した時の効果と副作用などを予測できるようになってきました。このような遺伝子配列の個人差を検出する方法を開発し、遺伝子診断などに利用することを目指しています。



## タンパク質や遺伝子を蛍光で検知し、その働きをコントロールする

遺伝子の本体であるDNAを材料として利用し、特定の物質(タンパク質など)に結合するDNA(人工抗体)をつくる研究を行っています。この人工抗体を用いて、血液や細胞の中にある病気に関連する遺伝子やタンパク質の存在を蛍光で検知する技術(バイオイメージング技術)や病気に関連するタンパク質の働きをコントロールする技術の開発などを目指しています。



## 研究室について

指導教員 准教授 加藤輝 (kato@bs.teu.ac.jp)  
 大学院生4名, 4年生12名(女性7名)